
遠くの空まで

白波

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

遠くの空まで

【Zコード】

Z5241V

【作者名】

白波

【あらすじ】

黒の組織を壊滅させた後、志保はAPT-X4869の解毒剤と手紙を残し米花町から離れるために空港へ向かう。

ある夏の日。あの黒の組織を壊滅させた後、私たちの体を幼児化させたAPT-X4869の解毒剤と手紙をおき私は解毒剤で元に戻った体で阿笠博士の家を飛び出した。

私は博士の家を出ると列車に乗り空港を目指した。
空港へ向かう列車から見る車窓を見ながら私はぼんやりと眺めていた。

これでみんなともお別れね……さよなら……みんな……そして、工藤君……

彼女と幸せに……。

車窓を見ながら私は思い出に浸っていたがやはりいつも出てくるのは彼の顔……。

最初会ったときの事

守ってくれるって言つてくれた時の事

いつか掛買のない相棒とも言つてくれたような気がする

でも……彼の当たり前だった日常を私は壊してしまった……。

姉が人質にとられている、やらないと殺される……。

そんな理由とはいえないな薬を作つてしまつた……。

いや……その理由もただの言い訳にしか過ぎない

なのに彼はいつも優しくしてくれた……。

彼にそんな気がないのはわかっているのに…彼が私なんか見てないのがわかっているはずなのに…彼が振り向いてくれたらってそんなことをつい考えてしまう…。

すべて自分が悪いの…。

私は勝手だ…。

でも届くなら心の隅に入れておいで…。

私はあなたが好きだった…。

工藤君…。

私が乗せた列車は空港の国際線ターミナルに直結している駅に滑り込んだ。

私はカバンを持つと表情一つ変えずに列車を降りターミナルに向かった。

国際線ターミナルで自分が乗る便の搭乗開始を知らせるアナウンスがあつた。

いよいよ日本ともお別れ…。

さよなら…工藤君…そしてみんな…。

自分の心中でみんなことよならを言い私は搭乗口へ向かった。

その時

「待てよ…灰原…。」

後からふいに話しかけられた。

いつものような口調で…

大人の姿になつても変わらないあの口調で…

振り向くとそこには工藤君が立つていた。

「工藤君…。」

とつぶやいた。走ってきたのだろうか？ 工藤君は少し息を荒立てながら

「灰原…いや富野…どこ行くつもりだ？」

と言つた。

「手紙に書いてあつたでしょ…。じゃまな私は貴方達の前から消える…。ただそれだけよ…。」

と言い残しその場を去ろうとすると工藤君が私の手をつかみ

「お前がじやまなわけねーだろ！ また、そうやって一人で逃げるのか？」

私は工藤君の手を振り払つと

「だつてそうでしょ！ 私があんな薬作つたせいでこんなことになつたのに！」

「そんなこともつこいだろ富野…。もつ一度米花町へと戻る気はないのか？」

私が何も答えないでいると工藤君は

「俺は、いつからかお前にひかれていった…。いとおしく思うようになつていた…でも蘭への未練が立ちきれずにいたんだ…でもな、蘭の奴俺の知らないところでいつの間にか別の恋人ができるてな…。」

「恋人つて？」

と私が聞くと工藤君は

「本堂だよ…アメリカに行つた…。」

「もしかして貴方がいつか行つてたドジな？」

「そう…。だから蘭への未練が断ち切れたからなんて言い方はなんだけど俺と付き合つてくれねーか？俺はお前の事が好きだ！宮野！お前が米花町にいにくらいなりビ」にでもついてつてもいい…だから…。」

と工藤君が頭を下げるとき私は少し間をおいてから

「私も工藤君の事が好きよ…でも私なんかでいいの？」

という言葉の後工藤君は頭をあげ

「いいんだよ…お前だからいいんだ…。」

と言つと工藤君は無言で私を抱きしめた。

「それじゃあ行こうか…。宮野…。」

「ええ…あと富野じやなくて志保つて呼んでくれる？」

「いいよ…志保。それでどうする？お前が米花町を離れたいならなんとかするけど…。」

「どうらじせよーつたん帰りましょー…米花町に…。」

「やうだな…。」

と工藤君が答えると私と工藤君はふたたび列車に乗り米花町へと向かつた。

(後書き)

少し読みづらかったりいろいろがあったかもしません…。

読んでいただきありがとうございました。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとっています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n5241v/>

遠くの空まで

2011年10月9日07時46分発行